



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑應答. 地球 1927, 8(3): 236-238

ISSUE DATE:

1927-09-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183317>

RIGHT:

午後〇、四〇下津井發

鹽田、野崎家退堂寺參觀

四、四六味野發

六、三六岡山歸宿

本日の鹽田視察は微細に研究せし事として大に得る所ありたり

○第二十一回例會 五月二十二日岡山女子師範學校内に開き
來會者二十五名左記講演あり寫眞、標本其他の展覽なせり

1. セレベス島視察談

師範 東儀 文孝君

2. 丹後地震地方視察談

一中 松本米次郎君

午後一時より岡山驛の視察に赴く驛長及主席助役の懇切なる

説明ありて後各所（地下室各裝置、檢斤臺、氣送管、高聲機

便所の新裝置、新設電話等）一々案内實驗を示され多大の利

益を得たり午後四時三十分開散せり

○第二十二回例會 六月十九日午前九時より六高博物學會主

催なる八木教授の

1. 日本地史の梗概（主として地質調査所編新刊）
地質圖及其説明書による

を傍聴し午後一時より縣商に於て

2. 地球に近づきつゝあるウインネツケ彗星に就いて

關中 水野 千里君

の講演ありたり來會者三十名盛會なりき。（浦上宗衛報）

答 昭和二年度列國々勢要覽の報告に従へば在外本邦人の數
左の通り

外國に在留する本邦人の總數は百十六萬で、帝國の總人口に
比すれば、一萬人につき百三十七人に當り、内地人は六十一
萬、朝鮮人は五十三萬、臺灣人は九千である。本邦人の最も
多く在留してゐるのは、亞細亞洲の七十九萬で、北亞米利加
洲の十五萬、太平洋の十四萬、南アメリカ洲の六萬之に亞き
最も少いのは阿弗利加の六十五人である、内地人を在留國別
に見て十萬以上在留してゐるのは支那、北米合衆國及布哇の
三ヶ所で一萬以上はブラジル、カナダ、バルウである、左表
を見よ。

内地人在留者

支	那	一四四、七七一	滿	洲	九七、一七八
米	國	一三三、〇八〇	ハ	ワイ	一二五、七六四
伯	國	四九、四〇〇	カ	ナ	ダ 一九、六七九
ハ	ル	ウ 一〇、九六九	ヒ	リ	ツ 八、六七四
海	峽植民地	六、三九四	蘭	領東印度	四、一九五
メ	キシ	コ 三、六三二	ア	ル	セン 二、六〇九
英	領印度	一、二一九	其	他各地	一千人以下

問 加州は年中五月の様な氣候を呈するのは何故ですか。

（大阪 ○生）

答 桑港の正月の平均氣溫は華氏五十度、冬でも温かいが、
夏の七月の平均氣溫は華氏五十八度あまり酷しくない、年雨

質疑應答

問 本邦海外移民の數を承りたし 福井 溪路生

量は二十四吋といふのであるが、大陸の西にあつて海が西にあり、暖流が岸を洗つて、氣候を柔げる外、東に大山脈があり夏期に低氣壓の中心がこの山の中に出て来るけれども、太平洋の高氣壓から流出する風が右にそれてこの海岸での西北風となり、東へ向つて正面山地に衝突しないから、自から北方からの涼風がふいてきて、酷暑にしないのであるが、冬は太平洋に出来る低氣壓に對して東南からの卓越風が暖氣をはこぶのです。世界等溫線圖をみて考へてみて下さい。

問 滿洲の柳條邊牆 は百餘年前柳校を列植したとあるが、いかゞですか。(大阪 H生)

答 小林氏の世界地理精義にはさういふ風に書いてありますが、柳條とあるからとて柳の木で作つたとはいへませぬ。支那では大きい河船を柳舟といひ大きい牛車を柳車といひます、漢書に服虔曰、東郡謂廣職車爲柳、蓋柳則訓大爾とあつて、必しも柳といふ意ではありませぬ。しかし康熙帝が開原から東北へ大平野を横斷して、松花江岸の法特哈門までの間に一線を劃し之を以て滿洲と蒙古領との境界として、こゝに邊牆をつくつた時、或は柳の樹を栽えて最初の目標にしたとみえ、爾來既に三百年を経過してこの名がある、故に百餘年前といふ程のものではない。

昔は華夷を限るために萬里長城をつくつたが、同様の障壁に邊牆といふ名がある滿洲にある邊牆も其歴史は古くて、古代から支那と滿洲との境界に長い城壁があつた。讀史方輿紀要

遼東の部を見ると、この滿洲の邊牆の事を記してある。邊防致には河西(遼河の西)一帶隨山起築、多用石砌、廣寧江東地勢平衍、唯藉版築とあるから、山海關即萬里長城の東端からさき、廣寧まではすつと山脈によつて石を以て築いた長城であるが、廣寧から東開原までは地勢平衍である石を得がたい故に土版を以てつくる即土壘にしてあつたらしい。それから開原の東方遼東山脈の分水嶺に沿つて南下し鳳凰城の附近に出て安東縣の附近で海に達する長城となつてゐる。鳳凰山には壘石の古城十萬の衆を屯するに足るものがあり、成化年代にはこれを修築し、この附近に墩臺を築くこと二十二座鎮江城に至る凡百里などと記してあるから中々立派なものである以上山海關から開原をへて安東に至る城壁を今日では一概に柳條邊牆といつてゐるけれども、それと康熙の柳條邊牆とは全く違つたものである。

秦始皇の萬里城は西は臨洮から東遼東に至るとあるのだから實はこの遼東の邊牆は或は燕や秦代の國境防壁であつたのであらうと考へる。明代この古城壁の跡に従つて遼東の邊防に供したのが、後この邊牆の北方、興京に起つた滿洲に敗れて奉天を滿洲の都にすることになりやがて北京をも滿洲人に渡したのである。滿洲が強大になつて、この邊牆の南側に移ると同時に開原から松花江へ一線をひいて、柳條邊牆をつくつた其の名が、後世遼東一帯の長城に移轉したのである。そこで眞の柳條邊牆は、今日遺蹟のある邊牆でなくて、開原

以北に限られることになるが、その開原以北の蒙古王の領地も、今日は蒙人の勢が衰へて、支那人の植民地になつてしまつた。即今日開原の西北にある、農安、長嶺、長春などいふ所は、康熙の頃は滿洲でなく郭爾羅斯王の地であつたが、支那人はコルロス王地のみでなく更にコルロス後の土地である肇州チ、ハル等を開拓し、猶も蒙古の地に喰込んで舊の哲里木盟十八旗の領地に今は洮南、昌圖等の都會をつくるやうになつて、東三省の管轄はずつと西に延び興安嶺に達せんとしてゐる。しかしもと／＼開原から西及北は滿洲ではなかつたので、黑龍江省の如きは大部分は蒙古領であつたのである。地理學上の滿洲といふ語の示めす區域と、歴史の上の滿洲といふ語の區域は全く一致しないのであるといふことを、この際一言しておく次第です。滿蒙の五鐵道などいふ鐵道敷設地の大部分は、つい近頃まで蒙古の領土で、遊牧の荒野であつたのが、光緒以後開發大にすゝみ農業に従ふ支那人が移住して多くの都會をつくることになつた、赤峯、農安、洮南、チ、ハル其他地間にのつてゐる多くの都會はすべてこれ近世支那人の移民によつて開かれたものである、故に滿蒙の開發といふ語を以てこれを表示するのです換言すれば内蒙古の東方は熱河以東殆んど支那人の勢力に蠶食されてしまつた形であるの現状である。(藤田)

○昭和二年度博物科(鑛物)豫備試驗問題

(第四十六回)

右四時間

(一)

(イ) mOm と ∞O との聚形の略圖を畫け

(ロ) mO と ∞O との聚形の略圖を畫け

(ハ) R と Rn との形體上の關係を明示すべき圖を畫き簡單なる説明を加へよ

(二)

結晶には種々の等しき物理性を有する若干の方向ありて其の配置に一定の規律ありといふ例を舉げて詳に之を説明せよ

(三)

錫の鑛石を舉げ其の化學成分及び特徴を述べ且其の產狀及び成因に就き知る所を記せ

(四)

花崗岩體が粘板岩層中に貫入せる場合に於て其の接觸界より遠ざかるに従ひ兩岩石中に如何なる現象が見らるゝか又其等の諸現象を生じたる原因に就き説明せよ

(五)

本邦に於ける中生層の區分、其の化石、及び層位的關係に就き知る所を記せ

(六)

次の諸項に就き説明せよ

(イ) 光學異常 (ロ) 秋宮村山層の珪華 (ハ) 泥流

(ニ) 豆石 Psolite (ホ) 細狀熔岩 Ropy lava (ヘ) 蠟番斷層 Hinge fault (チ) 水晶の焦電氣現象 (テ)

α 石英及び β 石英 (リ) 花崗鑛山の石膏 (×) 球狀花崗岩